

## 2015年2月20日～3月9日の阿蘇火山噴出物構成粒子の特徴

阿蘇中岳から2月20日～3月9日にかけて噴出した火山灰試料は、2014年12月後半以降の噴出物とほぼ共通の特徴を持ち、本質物である褐色透明のガラス質粒子に富む。3月9日噴出物はやや結晶化の進んだ黒色不透明粒子を多く含む。

2月20日～3月9日に採取された火山灰試料の粒子を観察した。試料は気象庁、京都大学、及び産総研によって採取された。

3月6日までに採取された火山灰は、2014年12月後半以降の火山灰とほぼ同様の特徴を持ち、淡褐色～濃褐色の新鮮で発泡した火山ガラス粒子を多く含む。その中でも、2月27日～3月2日、および3月2日から3日にかけて降下した火山灰は、淡褐色～濃褐色の新鮮で発泡した火山ガラス粒子が多量に含まれ、その一部は溶融状態で引き伸ばされたベレーの毛状の形状を示す(図1および図3)。それ以外の期間に採取された火山灰中の褐色ガラスはスポンジ状～ブロック状である。

3月9日の微動中断後、18時すぎに噴出・採取された火山灰は、黒色不透明の粒子がその大部分を占め、新鮮で発泡した火山ガラス粒子は比較的少ない(図2)。

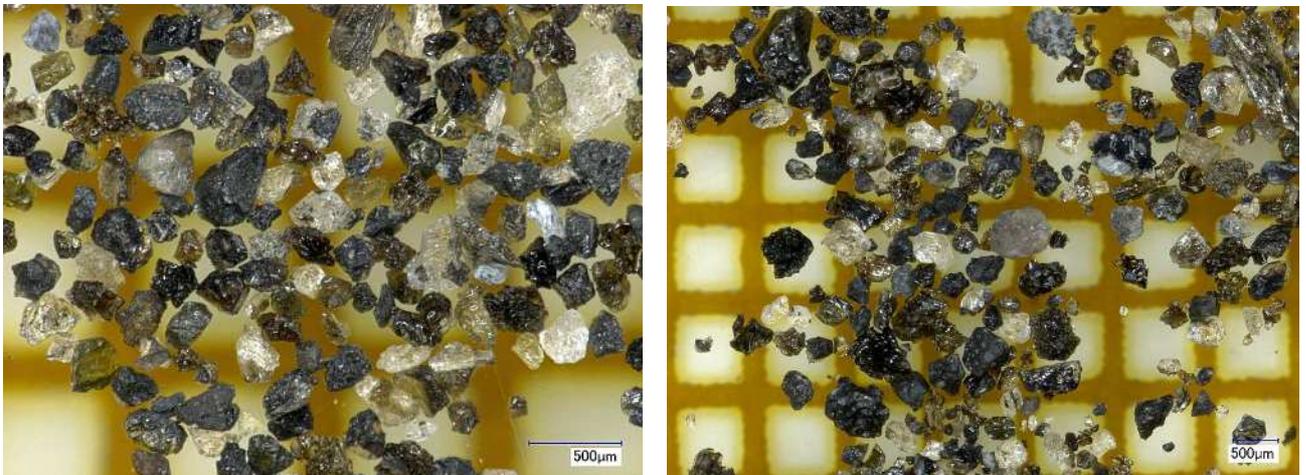


図1 左：2月23日14時20分～16時10分の火山灰粒子。右：3月2日～3日の火山灰粒子。褐色で新鮮な火山ガラス粒子が主体。ガラス粒子表面は光沢をもつ。



図2 左：2月20日～27日の噴出物に含まれる発泡し破断面で囲まれる褐色ガラス質粒子。右：3月2日～3日噴出物に含まれる伸長した褐色ガラス粒子。



図3 3月9日18時ごろの火山灰粒子。褐色ガラス質粒子はやや少なく、黒色不透明粒子が目立つ。